中日両言語における「性向語彙」についての対照研究
―「気前のよい人」を中心に ―

施　暉・欒　竹民

はじめに

「性向語彙」とは、生まれつきの性格や日頃の振る舞い、人柄などを評価の観点から捉えて表現する言葉の総体を指す。これらの語彙は、単なる対人評価語彙として機能するだけでなく、同時に、自らが行動する場合の行動モラルの具体的な指標としても機能するものである[1]。従って、性向語彙の精緻な構造分析を通して、それぞれの言語文化における行動原理や対人評価、更には労働に対する価値観や理想的な人間像を解明することが可能と考えられる。

性向語彙についての先行研究を振り返って見ると、これまで日本の研究者[2]を中心に、日本語の性向語彙の特徴を解明するために、その材料として地域社会における方言に限定して実態調査と比較が盛んに行われて、性向語彙の地域言語研究においては著しい成果が挙げられている。しかしながら、現在、日本語における性向語彙についての研究は、大部分が「方言性向語彙」の研究に傾斜しており、共通語及び他国語との比較対照研究に関しては全く行われていないと言っても過言ではない。

このような現状に対し、室山敏昭[3]は他地域の性向語彙の記述、分析、体系化と相互間の比較研究の必要性について、次のように述べている。「異文化間のコミュニケーションを円滑に推進するためにも、『性向語彙』という表象によって、個々の文化におけるミクロな差異を明らかにしていくことが必要とされよう。異文化間の接触が進めば進むほど、ミクロな差異の相互関係が重要になってくるからである。したがって、今、早急になすべきことは、日本の地域社会はもとよりのこと、地球上に存在する多くの地域社会を対象とした『性向語彙』の綿密な個別的記述である。それらの結果を総合的に分析していくことこそ、異文化の共存の将来の方向を予測させるものとなろう」[4]とある。

この示唆を受け、本研究[5]は中国・日本・韓国三言語間の比較を通じて、多言語間の性向語彙のシソーラス（性向語彙の生成、意味用法）を解明するための比較研究の試みとして位置付けられる。性向語彙はどの言語にも存在している。言うまでもなく中・日・韓三言語とて例外ではなく、その語彙数は大量であるのみならず、それぞれ多様多彩に富んだ特徴も具わっている。意味と評価という特質を有する性向語彙を通してその国、民族及び社会の深層に潜んでいる価値観、人生観、道徳観や行動規範等が反映される。従って、異

なる言語間の性向語彙についての比較研究を行うことは重要且つ必要である。本研究はその一環としてまず中日両言語における「気前のよい人」に対しての評価語－性向語彙に焦点を当てて比較を通して両国の共通点と相違点を解明すると同時に、各自の対人評価視点、価値指向の特質等にも迫ってみたい。なお、「気前のよい人」という意味項目を研究対象とした理由は今回調査した111意味項目の中で異なり語数と延べ語数両方ともその順位がベスト10に入っているためである。また、後述するように、中国人にとっては「気前のよい人」またはその行為が人を評価する上で、不可欠で重要なポイントの一つでもあるからだ。

次項では、中日両言語における「気前のよい人」の性向語彙についての分析と比較に先立って、本研究のために行ったアンケート調査の概略を述べる。アンケート調査は2003年７月から2010年10月にかけて408名の中日両国人（社会人それぞれ104名、年齢層：30代、40代、50代、60代以上、男女各13名、大学生それぞれ100名、男女各50名）を対象に、日常的に使用する（共通語の）対人評価語彙について、アンケート用紙に「性向語彙」を記入させる形式で行った。つまり、巻末に添付してある調査票に列挙されている意味項目に当てはまると思う対人評価語を自由に記入する方法を取った。更に追加調査として表記や執筆者の分類した評価度合い等を確認するために面接調査も実施した。調査票は室山が日本の方言調査のために構築した106意味項目[6]を踏まえながら、中日両国文化等の特徴を表出できる５意味項目を加えて合計111意味項目から構成されたものである（文末に添付してある調査票をご参照）。

Ⅰ．中日両国の「気前のよい人」と「交換行為」について

中国人は人と人との交際において「礼は往来を尚ぶ」という社会的規範を重んじるのである。正に『礼記・典礼』において次のように解き明かされている通りである。「大上貴徳、其次務施報。礼尚往来。往而不来、非礼也。来而不往、亦非礼也（大上は徳を貴び、其の次は施報を務む。礼は往来を尚ぶ。往きて来らざるは、礼に非ざるなり。来りて往かざるも亦礼に非ざるなり）」と述べられている。つまり、最善たる交際の仕方は互いに徳を以て交わり、礼も挨拶も必要としないものである。それに次ぐものは一方から施すと他方から報いるというやり方である。即ちそれが礼である。礼には往と来（施と報）が必要である。いわば、一方通行ではなく、互いに往き来すべきという社会的交換行為[7]である。こちらから往ったのに、あちらから来ないとか、あちらからきたのに、こちらが往かないとかでは、礼にはならないのである。更に言えば、「礼」は道徳的規範という範疇に属するものであり、贈答という義理人情として機能するものでもある。義理人情とは中国社会において明らかに「互酬」[8]という人間同士間に実施される社会的交換行為であるため、夙に重要視されているのである。この点について現代中国の社会学・人類学の第一人者ともいわれる費孝通は次のように論じている。「人間関係の親密たる団体や組織の結束力はそれぞれ

構成分子の間にある、互いに返礼し切れない「人情」[9]を頼りながら維持するのである」（筆者訳、原文省略、以下同）[10]とある。また、翟学偉も西洋人と比しながら、同様な主旨の論述があり、「中国の人情は西洋人と違って等価的交換ではなく、清算し切れないし、返し切れないことを良しとする。このような非等価の互酬的交換行為を繰り返すに伴って、人情関係が構築されるようになる」[11]とある。一方、日本社会では、伊藤幹治が『贈与交換の人類学』においてモーズバッハの指摘を引用した形で、「等価のものを返済する義務が、欧米の社会よりもかなり制度化され、それが交換当事者の関係を強化している」[12]と述べ、更に、「日本の社会に、たとえ部分的にせよ、贈与に対する返礼に等価が期待され、あるいは、等価が義務付けられ、交換当事者のあいだで均衡が相対的に重視されている事実は注目に値する」[13]と説明しているように、中国の社会における「人情」的交換に見られる非等価性と異なっている。

前述したように、中国では「礼は往来を尚ぶ」といい、「人情」的交換といい、いずれも物品や金銭による贈与、返礼が欠かせないのみならず、返礼の分量は贈与のそれを上回るのが常識となっている。その故に「大方（気前いい、大様）」という性向は中国社会において「人情」を重んじる人か否か、付き合えるか否かを量る重要な尺度の一つであると言ってよい。もし人は「大方、慷慨（気前いい、太っ腹）」と評価されたら、面目が立ち、顔が広くなり、友達も増えるようになる。さもなければ、けち臭いと見下されたり、顔が狭くなったりして世間体が悪くなる。中国人の「大方（気前のよい）」という性向の特質について、呂俊甫が「「気前のよい」のは和睦で且つ客好きであることを意味する。多くの中国人は自分としては倹約であるものの、友人や客人に対して気前よく接するのである。「気前のよい」ことは体面を保つための手段であり、人間関係を築く方略の一つでもあると言えよう。もし人に対して吝嗇なるまねをしたら面子を失ってしまう」[14]と説いている。園田茂人は中日両国の人間関係の差異について「第一に、関係を通じて流れる資源の量が日本に比べて圧倒的に多い。（中略）第二に、個人間の関係は物質的な基盤によって支えられている点が挙げられる。抽象的な理念を共有するだけでなく、具体的な物質―食事や贈り物、バック・マージンなど―のやり取りによって関係は発見され、維持されているのである。贈り物もまた関係を支える重要なツールである。（中略）第三に、日本人に比べ、関係をもつ者の間に相対的に強い親密感が生じている」[15]と指摘している。換言すれば、中国人は日本人より人間関係を築くための付き合いを更に大事にするのである。親密な人間関係を構築、維持すべく、「送礼（贈与）」ということは不可欠で且つ必要な社会的行為であると言ってよかろう。よって、「大方、慷慨（気前のよい、太っ腹）」は言うまでもなく対人評価の性向の一つともなると考えられる。一方、中日両国では人の接待、ものの贈答や返礼等において違いが現れているが、例えば、中国人は上記のように、「気前のよい」を貴ぶのに対して、日本人は「気は心」「気持だけ」を良しとして贈り物の価値如何に拘らず、「御中元」や「御歳暮」などのように、もののやりとりという人情的交換行為自体を重んじ

るようである。「食物を基調とした日本人の贈与と返礼」[16]はその延長線において生じる互酬行為であろう。つまり、中国人のように「気前よく」振る舞う必要がなく、「食物」を中心とする物品だけで人間関係の構築、維持に間に合うようにおもわれる。

以下、「気前のよい人」を表す中日両国語の性向語彙についての分析、比較を通してこのような差異を検証してみる。なお、中日両国の「気前のよい人」に対する評価語を巡って、プラス（正）、マイナス（負）及び中性（ニュートラル）という評価視点（関心の焦点）に立脚して、下記のように集計、分類を行ってみた[17]。一方、室山は「方言性向語彙は、プラス評価対マイナス評価という二極対立構造を基軸にして、中国・四国地方の多くの村落社会で100項目に近い性向に分節されており、評価の点で完全にニュートラルな性向を表す語彙は全く認められない」と指摘している[18]。しかし、本研究の予備調査（アンケート調査と面接調査）ではプラスとマイナスのどちらにも入らず、中性であるという回答が少なからず見られた。従って、本調査においては敢えてプラス、マイナスの他に中性（ニュートラル）という評価視点を追加した。

Ⅱ．中国語における「気前のよい人」について

まず、中国人が「気前のよい人」を評価するのに使用されている性向語彙の数量と頻度について示す。調査で得られた異なり語数と延べ語数はそれぞれ118語と289語となっている。なお、下記の表にある各ますの配列は回答例、日本語訳及び延べ語数という順となっている。

表１：プラス（正）評価72語（異なり語数）

慷慨 太っ腹 39	不計較的人 大らかな人 14	不小気的人 けちでない 人14	大気 大様13	爽快 さっぱりする7	大方 気前いい 6	豪爽 豪快6	不吝嗇的人 吝嗇でない 人5	不拘小節 さばさばする5
大度 度量が大きい4	大方的人 気前いい人 4	宰相肚里能撑船 心の広い4	落落大方 気立てのよい4	不計較 拘らない3	気量大 寛容3	不小気 気風のいい 3	大度的人 度量が大きい人3	慷慨的人 太っ腹の人 2
開朗 朗らか2	慷慨解囊 気前よく支払う2	大大落落 豪放磊落2	出手大方 気前よく振舞う2	慷慨者 太っ腹の人 2	慷慨之士 太っ腹の人 2	豪爽的人 豪快な人1	不愛計較 あまりけちけちしない1	楽善好施篤志1
正直 正直1	坦率 率直1	無私人 無私の人1	豪気 豪傑1	不吝嗇 吝嗇でない 1	肚量大 器の大きい 1	厚道 心の優しい 1	爽気 気っ風のいい1	豪爽派 気っ風のいい人1
豪爽之輩 気っ風のいい人1	豁達 闊達1	爽快的人 豪快な人1	寛宏大量 心の広い1	寛容 寛容1	善解人意 物分かりよい1	虚懐若谷 虚心坦懐で包容力がある1	視金銭如糞土 無欲1	心胸開闊 度量が広い 1
随和 温厚、穏やか1	講理 物分かりよい1	有風度 格好いい1	愛交友 友達作り好き1	好人 いい人1	真大気 本当に寛大 1	仗義 義理堅い1	胸懐大 懐が広い1	四海 海のような広い心1

大気个 寛大な人1	没有架子 腰の低い、低姿勢1	豪士 豪傑漢1	大大方方 とても大らか1	大肚 度量が大きい1	很豪爽 とても豪快1	慷慨大方 大様で気前いい1	心地善良 心の優しい1	慷慨無私 私心のない1
深海般胸襟 寛大な心1	熱情大方的人 親切で気前のいい人1	不計較個人得失的人 けちけちしない人1	千金散尽都不惜、只求世上人平安人のために金を惜しまない1	不計小利的人 小利に拘らない人1	応該交的朋友 付き合うべき友達1	有很多朋友 友達が多い1	楽善好施的人 篤志家1	正派的人 品行方正な人1

表２：中性（ニュートラル）評価22語（異なり語数）

大款 大富豪4	有銭人 金持ち3	財大気粗 羽振りをきかせる3	手筆大 豪勢に金を使う2	款爺 大金持ち2	闊気 豪勢、贅沢2	老板 経営者、親分2	富豪 富豪1	講究 拘る1
款哥 金持ちの兄貴1	有財 財産がある1	大手骨 羽振りがいい1	富有 富裕1	款婆 金持ちの婆	舎得 惜しまなく使う1	外向 外向的1	大手筆 金離れがいい1	大哥大 親分1
闊人 金持ち1	闊佬儿 お金持ち1	大姉大 金持ちの姉御1	手面闊気 金持ちぶる1					

表３：マイナス（負）評価24語（異なり語数）

大手大脚的人 金品を贅沢に使う人12	大手大脚 金品を贅沢に使う8	窮大方的人 気前のよすぎる人7	揮金如土 湯水のように金を遣う6	一擲千金 金を惜しげもなく浪費する3	大大咧咧 大まか、大雑把2	闊少 金持ちの坊ちゃん1	揮金如土的人 湯水のように金を遣う人1	大大咧咧的人 大まか、大雑把な人1
擺闊的人 豪勢ぶる人1	揮霍浪費 恣に無駄遣いする1	手腕円滑 如才がない1	揮霍無度 金遣いが荒くとどまるところがない1	花銭如流水 湯水のように金を使う1	散財閻王 極めて無駄遣いが多い人1	窮大手 大様すぎる1	敗家子 放蕩息子1	提款机 ＡＴＭのように金遣いが荒い人1
手大 無駄遣い1	銭包 金遣いが荒い人1	傻蛋 馬鹿1	大手 浪費者1	手松 財布の紐が緩い1	虚偽 偽り、虚偽1			

上掲した表１、２、３から分かるように、「気前のよい人」という意味項目における性向語彙は異なり語数として118語に達して、111意味項目の中で占める割合が上位10に入っている。その結果から中国社会では「気前のよい人」という対人評価行為について関心度、注目度が高いことが分かり、また、人間関係構築において明らかに存している「人情」を重んじ、「面子」に拘るという意識、心理を垣間見ることもできる。55番「けちな人、しみったれ」というマイナス評価の意味項目に対して、54番「気前のよい人」はプラス評価の意味項目に属するものであるものの、上記の表３の示すが如く、少なからぬマイナス評価語が現れており、異なり語数として24語もあって、異なり総語数の23.3%を占めている。これは他でもなく中国人が「気前のよい」という性向を貴ぶといえども、決して一辺倒では

なく、過不足なく節度のあるのを求めようとすることを物語っている。それと同時に、先行研究で明らかにになった性向語彙に「下降性傾斜の原理」即ち「負性の原理」[19]が存在していることも判明したと言えよう。更に、日常生活における対人評価に用いられている性向語彙にマイナス評価語が多く見られることによって、人々に対しては、「してはいけない」ことと「なってはいけない」人間と戒められ、警告されることになるであろう。換言すれば、プラス評価、唱導するのではなく、マイナス評価語を通して「すべからぬ」ことを行うなと誡告、説諭されることになる。かかるマイナス評価の傾向性は性向語彙に現れる特質の一つであり、中国社会に存在している「負性」的な価値指向が浮き彫りにされている。それは「気前のよい人」という意味項目に止まらず、中日両言語の第1「働き者」、第3「仕事の速い人・要領のよい人」、第7「人一倍仕事に熱中する人」等の11意味項目を考察した結果、室山が解明している「過小価値」と「過剰価値」という「負性の原理」が存在、機能していることも確認できた[20]。これは古くから綿々と中国社会に根付いている、中国人の営為の「指向価値」とも言える「中庸」（過不足のなく、偏りのない）という価値観、行動規範と大いに関わっていると言ってよかろう[21]。

さて、中国人は「気前のよい人」に対して一体如何なる視点で評価しているのか、以下この点について主として「気前のよい」人、こと、行為（振舞い）及び性格に着目して考察してみる。先ず、マイナス評価視点として以下のように分類される。

①金遣いが荒く、浪費する人（こと等）：

大手大脚的人（金品を贅沢に使う人）、揮金如土（湯水のように金を使う）、一擲千金（金を惜しげもなく浪費する）、闊少（金持ちの坊ちゃん）、揮霍浪費（無駄遣いする）、敗家子（放蕩息子、浪費者）、花銭如流水（湯水のように金を使う）、揮霍無度（金遣いが荒くとどまるところがない）、散財閻王（極めて無駄遣いが多い人）

②金持ちぶって金に大まかな人（こと等）：

窮大方的人（気前のよすぎる人）、擺闊的人（豪勢ぶる人）、窮大手（大様すぎる）、大大咧咧的人（大まか、大雑把な人）

③馬鹿、虚偽である人（こと等）：

手腕円滑（如才がない）、傻蛋（馬鹿）、提款机（ATM、金遣いが荒い人）、虚偽（偽り、虚偽）

以上の分類から「気前のよい」人またはことは評価に値するが、その度を過ぎると、マイナスの方向へ傾斜して「揮霍、乱花銭（浪費、金遣いが荒く）」なってしまう。それのみならず、マイナス評価の程度も弱から強へ展開するという傾向性をも表している。つまり、マイナス評価の行為として「手松（財布の紐が緩い）、手大（無駄遣い）→大手大脚（金品を贅沢に使う）→揮霍浪費（恣に無駄遣いする）→揮金如土、花銭如流水（湯水のように金を使う）というように、程度が段階を追って強くなっていく。また、マイナス評価の人としても同様にマイナス評価程度に幾つかの段階を見せている。「闊少（金持ちの坊ちゃん）

→提款机（ATMからどんどん金を引き出すように、金遣いが荒い人）、銭包（財布から次々と金を出すように、金に糸目をつけない人）→敗家子（放蕩息子）→散財閻王（極めて無駄遣いが多い人）等があるように、「気前のよい人」に対してのマイナス評価において意味の細分化及び評価度の多層化を成している。これも中国人が「気前のよい人」を重んじるというよりも寧ろ「気前のよすぎる人」と「こと」に一層注目、関心を寄せるというような特徴を投影している。なお、マイナス対人評価への転化過程からみると、「気前のよい人」または「こと」が過剰になれば、「擺闊」（豪勢ぶる）ことになり、その目的が不純であると疑われて、不誠実で「虚偽」の行為となってしまう。従って、中国人は「金遣いが荒い、金持ちぶる」人を物事の分からぬ「傻蛋（馬鹿）」と酷評し、このような行為をする人を「提款机」、「銭包」と蔑視する所以である。なお、「提款机」や「銭包」という性向語彙は大学生に限られており、社会人の使用は確認できなかった。中国人はかかる多様多彩なマイナス評価の性向語彙を通して過度の「大方（気前のよい）」ことにならないように制約、束縛を加える。これによって、中国社会に根を下ろしている「過も不足もない」という「指向価値」が維持されていく。

マイナスの性向語彙に対して、プラスの評価視点から性向語彙が次のように分類される。

①寡欲で金品に拘らない人（こと等）：

1、金品に拘らない：不計較的人（大らかな人）、不小気的人（けちでない人）、大方的人（気前いい人）、慷慨的人（太っ腹の人）、慷慨解囊（気前よく支払う）

2、寡欲：無私人（無私の人）、不計小利的人（小利に拘らない人）、慷慨無私（私心のない）、楽善好施的人（篤志家）、視金銭如糞土（無欲）

②寛容、信頼できる人（こと等）：

3、寛容で大度である：大度的人（度量が大きい人）、爽快的人（豪快な人）、豪爽（豪快）、気量大（寛容）、寛宏大量（心の広い）、心胸開闊（度量が広い）

4、誠実、正直である：正直（正直）、正派的人（品行方正な人）、坦率（率直）、厚道（心の優しい）

上記のプラス評価視点についての分類に依れば、中国社会では「大方人（気前のよい人）」とは金品に対して大らかでけちけちしないだけではなく、寛容で大度である性格及び誠実で信頼できるというような持ち主であることが明らかになる。これは中国人が「気前のよい人」またその行為を量って、評価する具体的な基準または尺度となっているとも言えよう。換言すれば、「大方人（気前のよい人）」は中国人の理想的な人物像であり、憧れの的であろう。しかしながら、中国で刊行された辞書類等[22]において「大方（気前のよい）」という見出し語についての釈義として「寛容可信（寛容で信頼できる）」という意味項目は皆無と言ってよかろう。

一方、中性評価の性向語彙について以下のような評価視点が見られる。

①富裕で金と財産のある人（こと等）：

大款（大富豪）、款爺（大金持ち）、富豪（富豪）、款哥（金持ちの兄貴）、款婆（金持ちの婆）

②金遣いが荒い人（こと等）：

財大気粗（羽振りをきかせる）、手筆大（豪勢に金を使う）、舎得（惜しまなく使う）、大手筆（金離れがいい）

上掲の中性的な評価視点から「大方人（気前のよい人）」またその行為は金銭や財産と密接な関係もあることが分かる。これも現在の中国社会では「仇富恨富（金持ちを憎み、恨む）」というのではなく、割合に客観的で且つ平常心で金持ちや富裕層等を扱って、評価することを物語っているし、また、「向銭看（拝金主義）」が蔓延して社会的潮流となっているため、現代中国人の金銭感覚、価値意識が変わっているか、または変わりつつあるという側面をも反映している。いわば、富は一人の人間として成功を収めているか否かを判断する物差しや社会的ステータスシンボルとまでなっているとも言えよう。「清貧」、「倹約」等のような古き美徳や価値指向はもう時代遅れの産物に過ぎず、廃れていく。代わりに古くからタブー視されてきた「金銭万能」という価値観が次第に社会に充満するようになっているようである。

Ⅲ．日本語における「気前のよい人」について

日本人の重んじる「義理人情」は中国的「人情」と同様、人と人との付き合いや人間関係構築、維持において遵守すべき社会的道徳規範の一つである。「義理」とは互酬性の規範として「恩を知り、恩に報いる」という特質を有している。恩を知り、恩を報いることは「礼は往来を尚び」、人情を受けて、人情で返すという義理を具現するのである。中日両国人が互酬的社会交換行為を重視するという点について、「日本と中国が同じく欠けた人情を返すことを重んじるため、『施恩』と『報恩』とはいずれも人間関係を調節する重要な装置であり、行為の規則でもある」[23]と説かれている。そうは言うものの、日本人の「返礼」は「即時的返済」、つまり、直ちに行うことを貴ぶという側面もある[24]。それに対して、中国人は「返礼」を急ぐことなく、適切な機会を計って行うのである。さもなければ、水臭いとか気が小さいとかように思われてしまい、人間関係に影響を及ぼす恐れもある。なお、中日両国の贈答における互酬的行為の違いについて「中国人が日本人と付き合っている中で日本人がけちと不満を漏らすことがしばしばある。中国人はいつも相手への情義に応じてその分を余すところなく礼品に込めて贈与するのである。それと同時に、同様な方法や気持ちで相手の自分への情義を計り、評価するという心理、期待も持つ。中国人は月給の十分の一まで踏ん張って礼品を買って送る場合もある。なのに、その返礼としてただ靴下やらライターやらの如きものをもらうなんて、頭に来てしまう挙句、日本人の贈り物が外見ばかりで中身のないとか、本当にけちだねとか言うのである」[25]と分析されている。

その理由の一つとして「日本では、礼品を送ることは神経を使う行為であり、もらい手に『貸し、恩』という心理的負担をもたらさないことが大事な原則とされる。贈与と返礼をよくするが、相手に『財務返済』という負担を与えてはならない。これは実に奥深い学問の一つである」[26]と挙げられている。さて、このような差異は「気前のよい人」においても見られるであろうか、また、日本では「気前のよい人」に対してどのように評価されているであろうか、中国との異同もあるであろうか、などの点を巡って、以下日本語における「気前のよい人」という意味項目の性向語彙を取り上げて考究を行うこととする。

日本語の「気前のよい人」に対する評価語は異なり語数87語、延べ語数200語となり、プラス、中性及びマイナスの評価語数の分布が下記に掲げた表の通りである。

表４：プラス（正）評価65語（異なり語数）

太っ腹68	羽振りがいい人7	太っ腹な人5	気前の良い人4	大らか4	大判振る舞い4	きっぷが良い3	いい人3	お金持ち3
リッチ3	金持ち3	寛容3	心が広い3	おごってくれる人2	気立てが良い2	気っ風が良い2	大盤振舞い2	豪快2
寛大2	でかい1	さっぱり1	面倒見のいい人1	男気がある1	さっぱり型1	気立ての良い人1	気前良し1	割腹が良い人1
男らしい1	懐の温かい1	懐が深い1	器が大きい1	出し惜しみしない1	ジェネラス1	ありがたい人1	兄貴分1	親切1
器がでかい1	世話好き1	粋な人1	優しい1	気持ちがいい人1	さっぱりしている1	ハイテンション1	寛容な人1	懐が広い1
気立て1	すごい1	気前がいい1	おうような人1	物欲が特にない人1	椀飯振る舞い1	思い切りの良い人1	気っ風がいい人1	拘らない人1
分け与える1	大きな器のある1	人に何でもする人1	豪放磊落な人1	人の面倒見が良い人1	自分のことより他人のことを優先する人1	人の為に惜しげなく支払いなどをする人1	羽振りのいい人1	謙譲の精神のある人1
男前1	社長1							

表５：中性（ニュートラル）評価10語（異なり語数）

金払いが良い3	金離れ(の)が良い人3	けちくさくない人1	財布の紐の緩い人1	銭払いの良い人1	金払いの良い人1
金放れのいい人1	気張る1	人のいい人1	金払いのいい人1		

表６：マイナス（負）評価12語（異なり語数）

お調子者1	調子もん1	見境のない人1	誇大妄想1	見栄っ張り1	浪費者1
いい格好しい1	軽い人1	宵越しの金は持たない1	八方美人1	成金1	調子良い1

表６から分かるように、日本語の「気前のよい人」に対しての評価語にはマイナス的性向語彙が異なり語数として12語あって、その異なり総語数の13%を占めており、上述した中国語の20.3%より遥かに低い。つまり、日本人は「気前のよい人」に対してプラスだけ

ではなくマイナスもあり、「負性」的な評価を呈しているが、中国人ほど際立っていないことが明らかになる。いわば、「気前のよい人」またはその行為へのプラス的評価は日本人が中国人より高く、普遍的な傾向が見える。まず、マイナス的性向語彙についてその評価視点から分類すると、次のようになる。

①金遣いが荒く、浪費する人（こと等）：見境のない人、宵越しの金は持たない、浪費者

②金持ちぶって金に大まかな人（こと等）：お調子者、調子もん、誇大妄想、調子の良い人、見栄っ張り、軽い人

③急に金持ちになる人（こと等）：成金

中国人と同じく、「気前のよい人」が過度になると、負の方向へ傾斜していくが、「気前のよい」ことは金遣いが荒く、浪費するというマイナス評価になってしまう。明らかに「過剰価値」が現れている。但し、負の評価の程度も中国語の多層化に及ばなければ、マイナス評価語もバリエーションに欠けている。日本人は、度を過ぎた「気前のよい人」を「成金」と揶揄、風刺する程度であり、中国人のように「敗家子（放蕩息子、浪費者）」、「傻蛋（馬鹿）」及び「虚偽」として非難、糾弾していないのである。つまり、中国人は「気前のよい人」を重んじるため、それに対しての評価が正負を問わずに日本人より多様であり、特にマイナス評価の目も厳しいようであると言ってもよい。負の評価に対して、プラス評価語について下記のような評価視点が見られる。

①寡欲で金品に拘らない人（こと等）：

1、金品に拘らない：太っ腹、太っ腹な人、羽振り（の）がいい人、大判振る舞い、大盤振舞い、おごってくれる人

2、寡欲：人に何でもする人、自分のことより他人のことを優先するいい人、粋な人

②寛容、信頼できる人（こと等）：

3、寛容で大度である：大らか、きっぷが良い、さっぱり型、でかい、豪放磊落な人、懐が深い、優しい、ありがたい人

4、誠実、正直である：いい人、気立て、気立ての良い人、いい人

③富裕で金と財産のある人（こと等）：

5、金と財産のある：お金持ち、リッチ、懐の温かい

④男らしい人（こと等）：

6、男らしい：男前、男気がある、男らしい

日本人の目に映る「気前のよい人」は金銭や財産において「気前のよい」のみならず、人間関係における「寛容、大度」及び性格上の「度量の大きい、豪爽」というような素質の持ち主である。このような「気前のよい人」は「いい人」「ありがたい人」「粋な人」等のような理想的な人物像として日本人の心の中に出来ているとも言えよう。「寡欲で金品に拘らない」と「寛容、信頼できる」という二つのプラス評価の視点は中国人と同じく、両

国人の共通点を見せている。一方、「富裕で金と財産のある」と「男らしい」という評価視点は日本人の独有のプラス評価となる。殊に「男らしい」は「気前のよい人」という性向の評価において明白な性差を表して、中国人と著しく違っている。つまり、日本社会では男性が女性より一層「気前のよい」ことを必要とし、闊達で大らかに行動するのを求められよう。これは、現在の男への期待を寄せており、また日本の男性が「割り勘男」や「草食系男子」にならずに、男らしさを取り戻すように願っているという側面をも反映している。なお、「金持ち」についても日本人が豪爽な性格、気前のよいというプラス評価に対して、中国人がニュートラルな評価に止まっている点が異なっている。

なお、両言語における「気前のよい人」に対しての評価語の発想に目を転じて考察して次のような異同が浮き彫りになる。上掲した性向語彙の示すように、人間の生まれつきの性格や日常的な行動癖、態度などを社会的規範に照らして対人評価する多くの語が身体の部位や内臓及び状態、更に身体動作などに転写されたものが多く確認されたのである。また、人間の情感、心情を身体内部の臓器に見立てた表現も少なからず存在している。このような発想が「精神の身体化」[27]と称されて、「身体比喩」とも呼ばれる。中国語の「気前のよい人」の性向語彙には「大手大脚的人（金品を贅沢に使う人）」、「大手大脚（金品を贅沢に使う）」、「窮大手（大様すぎる）」、「大手筆（金離れがいい）」、「手松（財布の紐が緩い）」などがあって、「気前のよすぎる」という行為を「手」や「脚」の大きさ、握りの緩さに見立てたものであるが、日本語にはこのような比喩表現がなかったようである。対して、中日両言語には共通したところもある。日本語における使用頻度の最高である「太っ腹」、「太っ腹な人」及び「心が広い」、「懐が深い」と中国語にある「肚量大（器の大きい）」、「心胸開闊（度量が広い）」などのように、「気前のよい」という性向を「腹、心、胸、懐」といったような身体臓器に写像して表現するのである。つまり、中日両国人は臓器を容器に見立て、太い、広い、深い、大きい等の形容詞と共起して使って、容器の広がりを通して「気前のよい人」または「こと」を表す。このように、抽象的な性向を身体化することによって、具体的なイメージを喚起し、分かりやすさ、面白さを狙った比喩表現であるとされる[28]。

結びに

以上の考察を通して、次の諸点が判明した。中日両国では「気前のよい人」に対して金銭、財産という物質的なものだけではなく、人柄、品格、性格及び度量等のような人格上のものも含めて評価するのであるが、最も注目、評価されるのは前者ではなく後者の「寛容、大度」であるという振舞いとそのような人である。また、留意すべきことは両国において「金持ち、富豪」等のような性向語彙で「気前のよい人」を評価しており、現代社会における金持ち、富裕層に対しての肯定的な評価があるという一面も浮き彫りになっている。日本語と比べて中国語では「気前のよい人」のマイナス評価性向語彙が多く見られて、中国

社会に「負性の原理」が根付いて、今に至っても機能している。一方、「気前のよい人」という性向において日本的な評価視点もあるが、それは「男らしい」ことである。つまり、日本では女性より男性の方が一層「気前のよい」ことを行い、「気前のよい人」になると期待、評価されるようである。中国ではかかる性別による評価視点が確認できなかった。一方、中国語における「提款机」や「銭包」などのような性向語彙は大学生だけの使用で、世代差を見せている。

注：

1．室山敏昭（2001）『「ヨコ」社会の構造と意味－方言性向語彙に見る－』和泉書院
2．藤原与一は『方言学』（1962年、三省堂）において、郷里方言の「性向語彙」を分類し、簡潔な記述を踏まえて、「性向語彙」研究の意義を説いたことに呼応する形で、広島大学方言研究会は、同会の機関誌である『広島大学方言研究会会報』の第13号（1969）、第14号（1969）、第15号（1970）、第16号（1970）の４号にわたって、「各地の性向語彙」を特集、掲載した。更に、井上博文他「大阪若者ことばにおける性向語彙の研究 －評価構造を中心に－」（『国語と教育』31巻、2006年）、灰谷謙二「島根県隠岐郡五箇村方言の性向語彙における造語法 (1) －名詞系と動詞系の語形成法－」（広島女学院大学『国語国文学誌』第29号1999年12月）等も見られる。また、唯一とも言える共通語の性向語彙についての研究として、渡辺友左『社会構造と言語の関係についての基礎的研究 (3) －性向語彙と価値観－』（国立国語研究所報告47、秀英出版、1973年）が挙げられる。なお、多言語間の対照研究として注目すべき研究は李成浩が広島市立大学に提出した博士論文及びそれを基にまとめた『中国・日本・韓国三言語における大学生の「性向語彙」についての対照研究』（中国伝媒大学出版社、2009年）である。
3．室山敏昭は、地域社会の言語において長年実態調査を行い、数多くの研究成果を収めた。主著は、『方言副詞語彙の基礎研究』（たたら書房、1976年）、『地方人の発想法－くらしと方言－』（文化評論出版、1980年）、『生活語彙の構造と地域文化－文化言語序説－』（和泉書院、1998年）等。
4．室山敏昭、「方言性向語彙の研究－回顧と展望－」平成11年度広島大学国語国文学会秋季研究集会における口頭発表資料
5．施暉・欒竹民『中・日・韓三国「性向語彙」についての比較研究－三国文化の異同をも併せて論じる－』（2014年中国「国家社会科学基金プロジェクト（09BYY080）」共同研究報告書）（本論：A4-287頁、資料編：A4-499頁）
6．同注１、50頁
7．大澤真幸他編（2012年）『現代社会学事典』392頁（弘文堂）に、「交換」について「ブラウが指摘しているように、あらゆる社会的行為は何らかの形で交換の性格をおびる。他人との相互作用を出現または想定させるとともに、合理的な考量の過程をともなうからである。その意味で、社会的行為と交換は等価である。それゆえ、交換の概念が有意義であるため、独自の発見的意義がなければならない」と説明されている。
8．同上注435頁「互酬性」について「互酬性reciprocityの定義は研究者によってかなり異なるが、一般に贈与とそれに対する返礼を中心とした関係、行動、観念、規範、原理などを意味し、贈与交換の問題と密接な関わりを有する」と説かれている。
9．中国における「人情」は西欧的合理性とは対立するものであるが、しかし西洋社会における友情や感情とも異なり、的確に英語に訳すことが難しい概念であるとされてきた。日本において使われて

いる「人情」とも違って、人間の基本的感情であり、社会的交換が行われる際に用いられる一種の資源で、個人とその関係ネットワークの中にいる他者とが互いに遵守することが期待されている社会的規範の一つであり、中国人の特有の民族性の表れでもある。中国は一貫して「人情」を重視する社会である。人々の日常生活や交際の過程で、「人情」は多様な社会資源となっている。

10. 費孝通（1985）『郷土中国』75頁、三聯書店
11. 翟学偉（2005）『人情、面子与権力的再生産』86-87頁、北京大学出版社
12. 伊藤幹治（1995年）『贈与交換の人類学』101頁、筑摩書房
13. 同上注、102頁
14. 呂俊甫（2001）『華人性格研究』224-225頁、遠流（香港）出版公司
15. 園田茂人（2006）『中国人の心理と行動』100-108頁、日本放送出版協会
16. 同注12、94頁
17. プラス、マイナス及びニュートラルという評価分類に際して日中両国のそれぞれ20名母語話者（大学生10名、社会人10名、男女各10名）を対象に、プラス、マイナス及びニュートラルをそれぞれ「思う」、「どちらかと言えば思う」、「思わない」と分けて、アンケート調査と面接調査を行った。
18. 同注１、36頁
19. 「負性の原理」について、室山敏昭は同上注において「性向語彙がプラス評価対マイナス評価という二極対立構造を基軸とするといっても、それは均質的に張り合う単純な二極対立の関係構造を示すものではなく、負の方向へ著しく傾斜した〈負性の原理〉を示すものである」と説いている。
20. 同注５及び施暉・欒竹民『（2011）「比較文化視角下的「性向語彙」研究」『蘇州大学学報』第１期
21. 中国人の「中庸」について国内外の研究者が指摘してあるが、例えば、林語堂著『中国＝文化と思想』、鋤柄治郎訳、講談社、1999年、BY FIEMING H.RREVEIL.CoMPANY著『中国人の性格』楽愛国他訳、学苑出版社、1998年等
22. 例えば、中国では発行数も使用範囲もトップである『現代漢語詞典』商務印書館、2005年、『中国語大辞典』角川書店、1993年等
23. 尚会鵬（1998）『中国人与日本人』284-285頁、北京大学出版社
24. 同注12、100頁に「リブラによると、即時的返済は、餞別に対する土産や病気見舞いに対する快気祝いの招宴のように、贈与に対して短い期間で行われる返礼のこと」と記されている。

25、26. 同注23、292-293頁

27. 室山敏昭（2012）『日本人の想像力－方言比喩の世界－』（和泉書院）81頁に「人間の性向や感情を中心とする精神の状態を、身体の部位や状態、あるいは動きに写像する、市川浩の言葉を借りるならば「精神としての身体」（精神の身体化）とでも呼ぶべき見立ての働き―メタファー認識」と説かれている。
28. 同上注

付記：本稿は中国の国家社会科学基金項目（09BYY080）及び欒竹民平成26年度海外長期研修による研究成果の一部です。また、本稿の執筆に際して査読委員の皆様には貴重で且つ的確なご意見を賜りました。ここに記して御礼申し上げます。しかし、頂いているご意見全てを反映できていない点は執筆者の力不足によるものです。

表：日本語における性向語彙111意味項目

Ⅰ、動作・行為の様態に関するもの		36	調子乗り・おっちょこちょい	74	冗談言い
Ⅰa、仕事に対する態度に関するもの		37	滑稽な事をする人	〈心にもないことを言う人〉	
A、仕事に対する意欲・能力のある人		〈好奇心の強い人〉		75	お世辞言い
1	働き者	38	物見高い人	76	お追従言い
2	仕事の上手な人	39	冒険好きな人	〈性悪なことを言う人〉	
3	仕事の速い人・要領のよい人	40	出歩くのが好きな人	77	悪意のあることを言う人・毒舌家
4	仕事を丁寧・丹念にする人	〈感情表出で偏向のある人〉		78	口やかましい人
5	丁寧すぎる人	41	怒りっぽい人	79	他人のことに口出しする人
6	辛抱強い人	42	涙もろい人	80	不平を言う人
7	人1倍仕事に熱中する人	43	良く泣く人	81	理屈っぽく言う人
B、仕事に対して意欲・能力の欠ける人		44	いつもにやにやしている人		
8	怠け者・仕事をしない人	〈気温に対して偏向のある人〉		Ⅱc、言語活動の在り方に関するもの	
9	仕事の下手な人	45	寒がりな人	82	評判言い
10	仕事の遅い人・要領の悪い人	46	暑がりな人	83	言葉使いが乱暴な人
11	仕事を雑にする人	〈飲食に偏向のある人〉			
12	仕事を投げやりにする人	47	大食漢	Ⅲ、精神の在り方に関するもの	
13	仕事の役に立たない人	48	意地汚い人	Ⅲa、固定的な性向に関するもの	
14	放蕩者	49	食べるのが特別早い人	84	堅物
		50	大酒飲み	85	強情な人・頑固者
Ⅰb、具体的な動作・行為の様態を踏まえた恒常的な性向に関するもの		51	酒を飲まない人	86	厳しい人
		52	酔っ払ってからむ人	87	優しい人
A、対人関係を前提としないもの		〈金品に執着する人〉		88	不親切な人
〈きれい好きな人〉		53	欲の深い人	89	陽気な人
15	きれい好きな人	54	けちな人、しみったれ	90	陰気な人
16	特別にきれい好きな人	55	気前の良い人	91	勝気な人
〈汚くしている人〉		56	倹約家	92	すぐに泣き言を言う人
17	片付けの悪い人	57	浪費家		
18	不精者	58	道楽者	Ⅲb、知能・知識の程度に関するもの	
〈ものごとに動じない人〉		B、対人関係を前提とするもの		93	賢い人・思慮分別のある人
19	沈着冷静な人・落ち着いた人	59	世話好きな人	94	ずる賢い人
20	のんきな人	60	でしゃばり・お節介焼き	95	見識の広い人
21	大胆・豪胆な人	61	愛想の良い人	96	馬鹿者
22	図太い人	62	無愛想な人	97	世間知らず
23	横柄な人・生意気な人	63	見栄を張る人	98	人付き合いの悪い人

〈ものごとに動じやすい人〉		64	自慢する人	99	人付き合いの良い人、親しみやすい人
24	落ち着きない人	65	気がきく人		
25	じっとしていられないであれこれする人	66	気がきかない人	**Ⅲc、人柄の善悪に関するもの**	
				100	人格の優れた人
26	気分の変わりやすい人	**Ⅱ、言語活動の様態に関するもの**		101	あっさりした人
27	小心な人・臆病な人	**Ⅱa、口数に関するもの**		102	誠実な人・実直な人
28	内弁慶な人	67	口数の多い人・おしゃべり	103	穏和な人・いわゆる善人
29	外では陽気だが家では無口な人	68	無口な人	104	ひねくれ者
30	極端に遠慮する人	69	口の達者な人・能弁家	105	しつこい人
〈乱暴な人〉		70	口下手な人	106	厚かましい人・図図しい人
31	いたずら者			107	気難しい人
32	乱暴な人	**Ⅱb、言語活動の内容に関するもの**		108	情け知らずな人
33	腕白小僧・始末に負えない子	〈真実でないことを言う人〉		109	面子を重んずる人
34	お転婆	71	嘘つき	110	個性の強い人
35	わがままな人	72	口のうまい人・口から出任せを言う人	111	嫉妬心の強い人
〈軽率な人〉		73	誇大家		

－し・き、蘇州大学教授、らん・ちくみん、広島市立大学教授－